



『温暖化の世界地図』（日本語版）

カースチン・ダウ、トーマス・ダウニング著／
近藤洋輝訳／丸善株式会社／2007年

地球全体の問題として温暖化を考える時に、お勧めしたい一冊。世界では温暖化の原因や被害、関わり方は少しずつ異なるものです。身近なところから心がけることも大切ですが、世界的に取り組んでいく必要性を、この世界地図を見ながら感じてもらいたいと思います。

『自分を信じて生きる インディアンの方法』

松木 正著／小学館／2001年

人間も含めたすべては大きな自然の中にあり、つながっている。北米のインディアン、ラコタ族が語る言葉には環境問題を考えるヒントだけでなく、幸せを手に入れるための方法が隠されています。そして、彼らの持つ思想や生き方は、日本人が古くから持つそれと一致するところが多いのです。そう、すべてはつながっている。

●センターでは新刊図書もそろえています。環境に関する学習や調べ物に活用してください。貸出もしています●

特集コラム

環境問題と「ノーベル賞」

2007年のノーベル平和賞が、地球温暖化問題に取り組むアル・ゴア元米副大統領と、国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）に授与されたことは皆様の記憶に新しいところだと思います。他に、環境問題がノーベル賞の対象となったものを簡単にご紹介します。

- ・2004年 ノーベル平和賞（植林活動による持続可能な開発や民主主義と平和への貢献）：ワンガリ・マータイさん
- ・1995年 ノーベル化学賞（オゾン層の破壊に関する研究）：パウル・クルツェン、マリオ・モリーナ、シャーウッド・ローランド

オゾン層破壊に関する研究で受賞していた方がいらっしゃいました。皆さん、ご存知でしたか？過去20年の間に3件が受賞しています。今後も注目ですね。

<センター通信>スタッフのつづやき

早いもので一年があっという間に過ぎていきます。この一年の間で、いろんな方と出会い刺激をたくさん受けました。この場を借りてお礼を言いたいと思います。

さて、ノーベル賞について調べてみると、今まで知らなかった事実があって面白い！同じ分野では最大3人まで受賞できるそうです。もし、その年に同じ分野で4人の候補がいたとしたら…。これは気になりだすと止まらない。時間があればもっと調べてみたいと思います。情報がありましたら、こっそり教えてください。（ぼ）

前回好評をいただいたドイツ通信。寒さも本格的になってきたということで、ドイツ・ベルリンの語学学校でドイツ語の勉強をしている石田さんから、暖房事情や寒さ対策についての印象を聞いてみました。



暖房について言うと、自分の家と学校の暖房は、家（学校）の中心で暖かいお湯を作り、それを各部屋にあるスチームのようなものに送るスタイルです。日本だと各部屋の暖房が一台一台独立しているタイプが多いので、そこが異なる点でしょうか。

また、寒さ対策についてですが、こちらでは健康の為でしょうが、走っている人を多く見かけます（冬になったので数は減りましたが、夏はかなりいます）。走って体を温めて尚且つ健康になれる、一石二鳥といった感じでしょうか。また、（ベルリンでは）歩きながらビール、さらにはワインを飲んでいる人も結構見かけます。体が冷えてしまいそうな気がしなくもないですが、早足で歩けばそれなりに体が温まる、自家発電のような気がします。

今回も、ドイツの生活に密着した視点で貴重なお便りをいただくことができました。ありがとうございました。

発行 環境学習交流センター

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ5F
TEL:019-606-1752 FAX:019-606-1753
E-mail : eco@aiina.jp

<http://www.aiina.jp/environment/>

◎環境学習交流センターは、
特定非営利活動法人環境パートナーシップいわてが
岩手県から委託を受けて運営しております。

次号は3月発行予定です。
楽しみに待っていてね！